

# HORIKAWA 105th

## 堀川同窓会報 HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION JOURNAL

### 第6号 100周年から5年

発行 京都市立堀川高等学校堀川同窓会

京都市中京区東堀川通錦小路上がる 〒604-8254 tel:075-211-5351

デザイン・印刷 株式会社サロト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948 tel:079-284-1380 fax:079-224-7746



#### 暖かい連帯

「会長さん、ごくろうさんです。」「私も、娘も、孫も堀川です。」この頃、街を歩いていると、知らない人から声をかけられる。堀川同窓会も、名簿、会報などで、ようやく卒業生達に静かに知られて来て、それは、暖かい連携になって来ていると思う。

特に、海外や遠いところの人達から声をかけられると、とてもうれしい。

みんな自分の母校がうれしいのだ。

三万人からのメンバーをかかる同窓会は、ゆきとどかないことも多いと思うが、この暖かい連携こそ、同窓会組織のパワーだと思う。

堀川の名声は、あまねく日本中に知られているが、日本全体の教育レベルはひくい。

エネルギーあふれる学者。なんでも吸収出来る柔軟な精神。

勤勉な日本人の教育レベルが、全体に世界の高レベルに位置するように、文部科学省の方針に努力をねがいたい。

教育力、即、国力であることを知ってほしい。



同窓会会长  
市田ひろみ  
(高第3回卒)

#### 「つながりを大切に」

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は母校の発展にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

9年間にわたり本校の校長を務められ、「堀川」を牽引くださいました荒瀬克己先生の後任として、4月に校長を拝命いたしました。皆様の母校である「堀川」を継承し、発展させられるよう、教職員とともに努力を重ねてまいります。

新校舎になって14年が経過しました。私が「堀川」に赴任したのは今から20年前。旧校舎の時代を知る数少ない教職員の一人です。

4月21日の堀川同窓会の後、同窓生の皆様を母校にご案内しました。米田貞一郎先生の「絆」の文字が刻まれた石碑、宮村長氏からいただいた油絵の大作（ともに昨年度の会報で、荒瀬前校長から紹介がありました）をご覧いただき、在校生にも声をかけていただきました。同窓生の皆様からは、我々の知らない「堀川」を教えていただくと共に、皆様には、在校生が「堀川」に寄せる思いを感じていただけたと思います。

勉強の面で話題となる一方で、生徒は部活動にも精力的に取り組んでいます。陸上競技部、放送部は全国大会に出場し、上位に入賞するものもいます。また、その他のクラブも、諸先輩方が築かれた伝統をしっかりと受け継ぎ、熱心に活動をしています。今後も後輩の活躍にご期待ください。

恵まれた環境のもと、在校生は誇りを持って日々の高校生活を楽しく過ごしています。

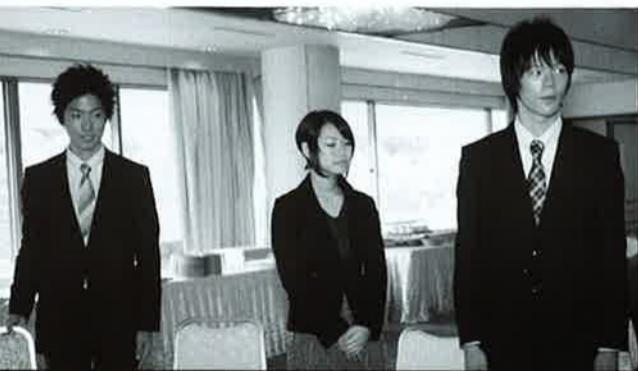
今後とも、母校へのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



校長

川浪 重治

# 104th



104回 堀川賞受賞者

竹森達也 岸 愛 瀧瀬和樹

百周年を記念して設けられた堀川賞。今年度も一番若い同窓生三人は清々しい姿で現れ大勢の先輩の前で、堂々と素晴らしい挨拶をしてくれました。希望に溢れる人生の門出です。同窓会一同、あなた方新同窓生をこれからもずっと応援していきます!!



104回 堀川同窓会

今年度から卒業50年の皆様をご優待し開催した同窓会は、お陰さまで沢山の参加者を迎えて開催する事が出来ました。宴は50年を祝う祝舞に始まりました。藤蔭流家元藤蔭静樹の舞う見事な舞いは、さすがに堀川が京都のど真ん中に位置する高校だった事を納得させてくれる一時でした。

HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION  
2012・4・21

# 104th



地球の反対からやって來たフローレス・デュオ。ホルクローレの音楽は、実に楽しく、リズミカルに会場を一つにしてくれました。それでいて何故か懐かしく、心に染み入るそのメロディーに会場はおしゃべりも一休みして酔いしました。



## 卒後50周年記念パーティーを開催

昭和37年3月卒業（高14）

松田 捷彦

私たち昭和37年3月卒業生（高14）は卒後50周年を迎える、約30名が定例の第104回堀川高校同窓会に出席しました。同窓の藤蔭流家元藤蔭静樹さまより祝舞をいただき一同大変感動いたしました。定例の同窓会のあと別室に会場を移し卒後50周年記念パーティーを開催。一年前より有志による幹事会も7～8回開きました。卒業生は約550名で住所不明者と亡くなられた方を除き約360名の方に参加を呼びかけました。当日90名の卒業生が集まりました。当時の校長先生、米田貞一郎先生は100歳を超えた今もお元気で参加していただきました。また担任の先生12人のうち、10人の先生がお亡くなりになり、当日は田中正夫先生が参加されました。約2時間の間50年前の高校生に戻り、楽しい思い出話に花を咲かせ、和気あいあいのうちに、5年後の再開を誓い無事閉会しました。50年一区切りの会を開催でき、一生の思い出になりました。次回はもっと多くの方が集まるよう期待しています。



**HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION**  
2012・4・21

## 「未来へつなぐ」

今年も冬の厳しさが前倒しとなり、気のせいでしょうか、年々、紅葉の色の深さも少し控え目(?)に、そして何より秋の季節感を満喫できる時間そのものが短くなってきたように感じられます。しかしながら、本校における今年度の“芸術の秋”は、かなり色濃く、充実した日々の連続がありました。10月21日には、京都・堀川音楽同窓会による「第2回オータムコンサート」が開催され、第一線で活躍の卒業生13名の方々が出演される、意義ある感動的なステージとなりました。また、11月3日文化の日には「城巽音楽フェスティバル」を、そして11月9日、10日の両日にわたっては「全国音楽高等学校協議会全国大会」を30数年ぶりに本校で開催しました。大会テーマを『音楽文化の拠点づくりと発信～地域と共に創る～』とし、フィナーレは『未来へつなぐ』と題したコンサートで締めくくりました。京都の音楽文化創造の発信拠点としての役割と共に、同窓会や地域と連携しながら、音楽を志す生徒たちの将来性を育み、未来へと夢をつないでいくのだという覚悟を、あらためて確認する有意義な機会となりました。さらに11月中旬には、2年生40名が、9日間のヨーロッパ研修演奏旅行に旅立ちました。『旅をしない者は実にあわれるべき存在です』これは若き日のモーツアルトが旅先から父に宛てた手紙の一節ですが、彼にとって

旅は音楽的に相当刺激的なものであったのでしょう。もちろんモーツアルトと重ね合わせるには無理がありますが、生徒たちは旅の経験を通して、時代や国を超えて、音楽の可能性を実感する多くの刺激と大いなる感動を得て帰国しました。

昭和23年、堀川高校音楽課程として設立された全国初の公立音

楽科が、分校として移転を重ね、平成9年に市立音楽高校として独立開校、そして平成22年、この城巽の地に「京都堀川音楽高校」として移転開校して3年目。本校の生徒たちが恵まれた環境の中で、日々生き生きと活動できていることはたいへん有難いことですが、『未来へつなぐ』夢の実現にむけてなら、今は“旅の途中”というべきなのかも知れません。常に出発点を意識し、絆を大切にしながら、さらなる飛躍と感動を求めて旅を続けたいと思います。

京都市立京都堀川音楽高等学校

校長 山脇 譲

*Humboldt Lagoons  
STATE PARK*

この辺りには渦が幾つかあります



シーザンなどは自分で作った数種の不細工なクッキーを親しい友人やご近所に配つたり頂いたりしています。今秋は我が家家のリンゴがよくなりましたが、小さく形も悪いので大鍋で三回もアップルチャツネを煮込み沢山瓶詰めを作りました。クリスマスギフトや手土産に喜ばれます。

京都とは全く違った世界で、一般的のアメリカと同様に新しい人々をどんどん受け入れ呑みこんでいく社会です。しかし、「人情に変わりはない」という言葉は真実です。言葉が不十分でも元来移民の国の人々は新しく来た人に理解があり努力を認めてくれます。「有難う」「お願します」「ごめんなさい」の三つの言葉をきちんと使うことを心がけて暮らせばそのうち理解し合う事ができると思っています。京都はこのようなことを家庭やご近所、いわば近所姑が仕込んでくれましたが、この自由を標榜するアメリカ社会では何をしても誰も文句をいません。個人と個性を尊重する社会だからですが、対人関係をよくし良い友達を作るには自分で考え律していくほかない社会もあります。遠い異国で楽しく暮らしていけるのも若い頃京都で鍛えられた何かに支えられているからかと思う日々です。

二千十二年十一月

北カリフォルニアにて

福西「スケルトン」代志子





本32回卒  
林 道子

## 若き日の想い出

昭和13年、桜花爛漫の候、私は京都市立堀川高等女学校に入学いたしました。石垣に廻りが囲まれたお城の様な校舎。緊張と夢と希望にあふれた女学生。おかげで頭にセーラー服、白いネクタイ、胸にはなでしこの花びらの形をした校章をつけていました。

一学年は五クラスあり、私は一年一組でした。岡校長先生、学年主任の田中元恵先生、担任の小松先生、男の先生は背広にネクタイ、女の先生は着物に袴、髪は後ろでくくったまげでした。

学校の前にはチンチン電車が走り、運転手さんはハンドルをぐるぐる廻し、紐を引っ張ってチンチンとならす。又、前の堀川には美しい水が流れ、友禅の布を流して洗う作業など、とても京都らしい風景でした。雨が降ると堀川の水が溢れ電車の線路上までくる事もありました。二キロ以内は歩いて通学する規約があり、私達は電車に乗らず通学しました。

チラチラ白い雪が降る寒い日など、耐寒訓練と言って二条城の周囲をかけ足で廻った事も今では、なつかしい思い出。又、西山養気園には、木を植え、野菜づくりに行った事など次々と思い出はつきません。

今こうして五年間の堀川女学校生活をなつかしく想い起こすと、誇りに思えてきます。

今年も十月ホテルオーケラにてクラス会をし、九名の出席でした。なつかしく話題に花が咲き、楽しく、励まし合い、次のクラス会での再会を約束しました。

## Trinidad

私のところから10km程北へ行くとツウリニダット漁港があります



**堀川高校と私のご縁**

昭和二十三年連合軍政府の日本民主化政策の一環として行われた学制改革により公立学校は男女共学とあわせて地域制となり、私は府一という女学校から堀川高校の併設中学に編入され、その年の秋から翌年の三月まで堀川高校の旧校舎へ通いました。当時は教室不足で一階の工作室が私たちのホームルームでした。その後併設中学を卒業したのかどうか記憶にありませんが、翌年私の住む東山区は新設された日吉が丘高校区域となり、私と堀川高校とのご縁は残念ながら僅か半年で終わることになりました。堀川高校では小学校の同窓の男の子達と一緒に振りに再び共に学ぶことになり彼らの青年としての知的な成長振りが印象的でした。

その半年間は西洞院から日本最古の市電であるチンチン電車に乗り換えて堀川高校まで文字通り寿司詰めで通いました。車掌さんが天井に張つてあるロープを引くと運転台の天井にある鐘がチンチンと鳴りました。幅の狭い車体で椅子は本のベンチだったと思います。小さい電車の軌道幅は狭いので四条通では三本のレールが敷かれていました。何故かボートの様に前後に揺れて走りました。

その後、縁あって米国の北カリフォルニアの小さい大学町アーケータから十キロほど離れたところに住むことになりました。四十年前はスーパー以外は何も無い所で所謂欧米先進国というイメージからはかけ離れたところ



第28回選抜高等学校野球大会



オフィスの片隅に五個の小さなビアカップが鎮座している。煉瓦色と褐色、僅かな黄味が、まだら模様に混ざった焼物である。とても高級な陶器には見えない。訪れる誰もが気付かず、問いかけることも無く通り過ぎる。他人には何の意味も無い。しかし私には、家族より、さらに長い間連れ添った“戦友”であり“宝物”である。

陽春、今年も「センバツ」の春が巡り来る。勇壮な行進曲「雷神」に合わせ、純白のユニホームにHのイニシャル、胸を張り、しっかりと憧れの「土」を踏み締めた余韻は今でも体が憶えている。

甲子園！あのグラウンドの「土」を踏むため、汗と泥にまみれ、激しく、厳しい、猛練習に、青春の全てを注ぎ込んだ。努力の賜物と幸運に恵まれ、母校、京都市立堀川高校は、昭和28年第18回全国選抜高校野球大会出場の栄を得た。

初戦、久留米商を4-0、2回戦、優勝候補・興国商を3-1で破り意気揚々、「堀川強し」を印象づけた。しかし勝利の女神もそれまで、四強目前、青森八戸高校に2-3で惜

敗した。強豪を破ったことで心の何処かに隙があったと思う。

下馬評では、堀川は堅守のチーム、エース前田は近畿随一の技巧派で不動の四番打者、内野陣は遊撃手主将室田、三塁手豊田は三拍子揃った好選手、中堅手小笠原は俊足、好打、守備範囲も広い。長距離打者はいないが、三割打者が3人、チーム打率は高く、どこからでも打ち出す力がある。礼儀正しくキビキビした好チーム、との評価を得ていた。

(当時のメンバーは別掲載)

アルプススタンドの応援も熱かった。2,000人を超す溢れんばかりの大応援団。全国屈指を誇る堀川音楽コースのプラスバンドに合わせ、打ち振る三角の黄色い小旗は、お花畠さながら、「緑なす森風にそよぎり…」と鼓舞する。

高山京都市長始め、今日もご健在と聞く若き日の米田校長、服部野球部長、多くの先生、高女の先輩、後援会の励ましも嬉しかった。堀川の青春を共有した元気一杯、学友達の大支援も心強い。片隅に若き父母の笑顔もあったと思う。

遙か彼方50有余年、色あせぬ青春の残像である。





## 我が青春の堀川 甲子園の「土」

(9回卒) 島本 憲吉

話を戻そう。

甲子園の戦い終わり敗者が去る、夕陽が傾く束の間に慌ただしくも、無心に黒い土をユニホームのポケットにつめ込んだ。

自宅に持ち帰った「土」は小瓶に詰められ、勉強机に潜むことになる。昭和36年フジテレビに就職、上京の折、整理しようとしたが「青春の証」捨て難く、三等寝台のボストンバッグ、果ては、会社机の引き出しの片隅に処を得ることとなる。

会社勤め50年、数え切れない異動、転勤、その度ごと机のリストラにも耐えてきた。小瓶の「土」は「砂」となり、手振りするとマラカスよろしく「シャカ シャカ」と乾いた音色をあげる。受験勉強で苦しかった時、仕事で頑張らなければならなかった時“私は振る！”甲子園の大応援団から背中いっぱいに受けたエールが聞こえる。若さとエネルギーが蘇るから不思議だ。

砂を長い間の日陰から陽の当る処に戻してやりたい。私のかねてよりの想いである。8年前、広島に勤務の頃、縁あって「御砂焼」で著名な宮島焼圭斎窯・川原師の手により厳島神社の御砂を混ぜ合わせた五個のビアカップに姿を変えた。

戦後の混乱期、闇市で母におねだりした粗末な布製グラブ、手造りボールの三角ベースに興じる以外、楽しみが無かった少年の頃、四当五落のガリ勉一途で国立大志望に邁進するか、憧れの甲子園に夢を託すか、行く末の選択に思い悩み、幾度となく鴨川の河原から小石を投げつつ小さな胸を痛めていた頃を想い出す。

「土」は明解に答えて呉れる。君の選んだ道に間違いはなかった。君は夢を叶えた。ごく少数の人にしか経験し得ない素晴らしい青春の一ページを残した。その後の人生に必要な強靭な体力、すべてに全力で立ち向かう不屈の精神、それを培った原点は汗と泥にまみれた嵯峨野グラウンドにある。

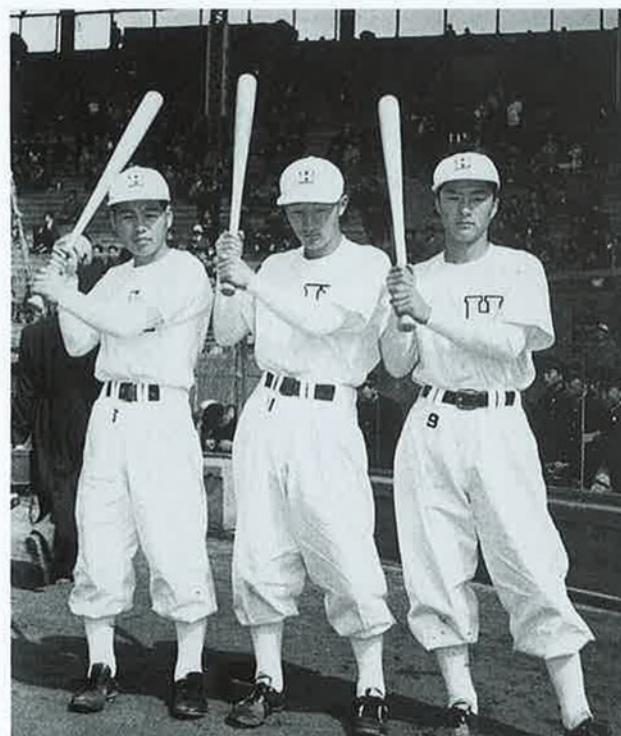
会社生活も長くなった。懐籠期に入社、今なお成長著しいフジテレビ、情熱電波テレビ新広島、躍進一途BSフジ。各々の職場で“戦友”と共に働いた50年。

今日まで微力を尽くすことが出来たのも甲子園からの授かり物だったに違い無い。

(私は昨年放送界を退きました。拙文は2年前雑誌「放送界」春季号に掲載された「えっせい」から、同窓会報向けに加筆、修正したものです。)

傍らに「土」がいる限り、励まされ、時には癒される。

心にはいつも青春の堀川がある。



# 還暦を迎える同窓生の皆さん!! 人生に一回だけの同窓会運



営!! 宜しくお願ひしま～す!!

60

毎年4月の第3土曜日は「全体・堀川同窓会」が開催されています。次回は、2013年4月20日、第105回同窓会となります。

再構築した同窓会は、100周年を目標に、何度も会議を重ね見事に100周年を大成功させました。そして、この熱い火を消してはいけないと、全体・同窓会を毎年4月の第3土曜日に開催することに決定しました。ようやく、同窓生の皆様に「全体・同窓会」の存在が定着し始めたのではないかと自負いたしております。

しかし、この先のことを考えた時、今運営している本部や事務局がやり続けていくことは不可能であり、継続出来る確約はどこにもありません。せっかく活発に動き出した同窓会をどうすれば若き仲間にバトンタッチして行けるのかと、知恵を絞り考えた結論が次のアイディアでした。

人生の一段落を迎えた学年、「還暦を迎える学年の方々に人生で一度だけ」運営をお願いしてみてはどうだろうかと。

その結果、再来年の106回同窓会を、再来年（2014年）還暦を迎える学年にお任せし、皆様の思い通りに開催して頂けないかと、お願いしました。

「人生に一回、全体・同窓会を運営する。」そのお役を還暦を迎える学年にお任せし、皆様の思い通りに開催して頂けないかと、お願いしました。

「106回の同窓会に向けて楽しい催しを考えたいと思っています。」

高25回卒

中村一郎 柏森佳子 秋久成人 竹田賢司 杉本昇治 牧 金吾 長谷川ユリ

私たち「にこにこ よんぱち会（高25回卒）」は、同窓会本部の依頼により、106回全体同窓会の企画運営することになりました。

私たちは、アテネオリンピックの年より、4年に一度、学年同窓会を開いております。毎回、150人を超える友人や先生が集まり、盛況に行っています。

「にこにこ よんぱち会」という名前は私たちが25期で、昭和48年卒業からつけました。

106回の同窓会に向けて、楽しい催しを考えたいと思っています。何卒、宜しくお願ひします。

急なお願いにもかかわらず、高25回卒の学年同窓会委員会の皆様に集まって頂き、色々お話し合いをして頂きました。

結果、本部のこのアイディアに賛同を頂き、また兄弟姉妹、クラブの後輩等にもこのことを伝え、自分たちが運営する106回同窓会に参加頂き、高26回卒に引き継いで行きたいとの意見を頂戴しました。

本当に快く引き受けて頂き感謝いたします。どうか宜しくお願ひいたします。

加えて、一つだけお願いしたことがありました。

「卒業して50年を迎える学年の同窓生の皆様を優待する」でした。

上記のことに関し、にこにこ・よんぱち会の皆様から「今後は是非、卒業50年の学年の方々をご招待に・・。」との意見を頂きました。現在、新卒同窓生の皆様には、無料で招待をしておりますが、是非その両学年をご招待にしていければと考えます。是非皆様のご意見もお聞かせ下さい。



高25回卒



杉田二郎

フォーク全盛の1967年アマチュアグループ「ジローズ」を結成。「あなただけに」が学生の間で大ヒットし、1968年プロデビュー。同年「はしだのりひことシューベルツ」を結成。「風」「さすらい人の子守唄」などをヒットさせる。

1970年に森下次郎と「ジローズ」を結成。大阪万博の時に、北山修と共に作した「戦争を知らない子どもたち」が1971年大ヒットする。1972年よりソロアーティストとなり、シンガーソングライターとしてコンサートを中心に活躍を続いている。

1992年日本レコード大賞企画賞を受賞。団塊の世代の代表として全国で活躍。1946年京都生まれ。

HORIKAWA  
105th

HORIKAWA  
105th

## 105回 堀川同窓会開催 参加者募集

日時：2013年4月20日（第3土曜日）午後2時～

場所：京都国際ホテル

内容：1. 堀川賞授与式

2. 105回記念コンサート

杉田二郎 フォークコンサート

3. 小宴

会費：2,000円（一般会員）

1,000円（高15回・昭和38年卒の同窓会員）

無料（平成24年度卒業生はご招待）

同窓会は毎年4月の第3土曜日午後から国際ホテルで開催いたしております。同窓会終了後、お集まり頂いた各学年の同窓会が開催されますよう時間を設定いたしております。ぜひ各学年のお友達をお誘い頂きご出席ください。

申込：別紙FAX用紙又は電話にて4月1日までにお申し込みください。

京都コンサートホールで開催いたしました100周年から、早くも5年が経過し、今年は105回と言う記念すべき同窓会です。

今年は、杉田二郎さんのコンサートが決まりました!! 青春時代、一度はギターを弾き口ずさんだフォークソング。なつかしいヒット曲のメドレーは、きっと青春を思い出すことでしょう!! 杉田二郎さんと大いに歌い、二郎さんの巧みな話術に感動し年齢はそれぞれ違っても、あの堀川高校で過ごした時間を共有したいと思います。

同級生だけでなく、友人、家族をお誘い合わせの上、多数ご参加ください!!

高15回（昭和38年）卒業生の皆様へ

堀川高等学校卒業50年おめでとうございます。皆様の青春時代とともに歩み続けたフォーク全盛時代をフォーク歌手の杉田二郎さんとともに思い起してください。皆様の同級生早川照二さんのご紹介で、杉田二郎さんが来て下さる事になりました。

皆様の学年の方々は¥1,000でご優待いたします。お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようお待ちしております。

## 2012年度 卒業生の皆さんへ

### 2012年度 第五回「堀川賞」募集

今年度エッセイタイトル

#### 「飛翔」 —世界に羽ばたく—

対象者：2013年3月 堀川高等学校卒業生  
締め切り：2013年3月22日

賞金：各10万円 優秀作品3部

堀川賞：100周年を記念して設立。毎年その年度の卒業生を対象にエッセイを募集。3名の受賞者は毎年4月第3土曜日に開催される同窓会にて会長より「堀川賞」及び副賞として金10万円を授与される。受賞作品は堀川同窓会のホームページにて全文を掲載しています。

### 救う会京都より



昨年3月「救う会京都」の総会にて、中村喜代治会長が体調不良のため会長交代を申し入れられました。新会長に木南克次氏が就任。それから一年も経たない昨年の12月、中村喜代治前会長は帰らぬ人となられました。同年7月には、前副会長の関口弘一氏も逝去され「救う会京都」の大黒柱お二人を失いました。お二人は本会当初から献身的に運動に取り組まれ、横田めぐみさんのお一日も早い帰還を願い、おそらく無念な思いで旅立たれることと存じます。どうか、天国よりめぐみさんの帰還を見守って下さい。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

救う会のメンバーのほとんどは77歳の同級生です。同窓生の皆様、救う会京都へのご協力、ご参加をお願い申し上げます。

救う会事務所：下垣 TEL：075-241-1663 FAX：075-241-1677

### 事務局より

## 106th HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION

- 2014年の同窓会から、その年に還暦を迎える学年が4月の同窓会の企画運営を引き受け下さることとなりました。「人生に一度の同窓会運営」が次々と受け継がれて行くように皆様のご理解をお願いいたします。
- 二年前、高14回卒の松田捷彦さんから申し入れて下さった「卒業50年」。それを記念して昨年104回同窓会に高14回卒の皆様をご優待し、多くの方がご参加下さいました。これを機に毎年、卒業50年の皆様をご優待して行く事となりました。
- 皆様の色々なご意見、ご希望をお聞かせ下さい。心よりお待ちしております。

### 編集後記

- 今回の同窓会報には、半年だけ堀川に在籍されたアメリカ在住の同窓生から文章が届きました。堀川の卒業生で、彼女のいとこをお尋ねになった一通の手紙にお答えし、やり取りするうち原稿依頼へと発展しました。嬉しい原稿です。
- 堀川の歴史上ただ一回の甲子園出場という名誉がありました。その記事を野球部一墨手だった島本憲吉さんがある雑誌に書かれ、その一ページが同窓会に送られて来ました。その原稿に飛びついで編集部は、即刻同窓会報用に書き直して頂きました。そんな矢先、現堀川高校の川浪校長から電話がかかり、「21世紀枠で堀川が近畿代表の一校に選ばれました!! 目指して来た文武両道です。」と、嬉しさに溢れた声で驚きの情報を頂きました。

同窓会が着実に、広く、深く、繋がってきていることを実感しています。